

# 明日の教室DVDシリーズ第17弾の刊行に当たって

山口 裕也 (YAMAGUCHI Yuya)  
杉並区教育委員会・同区立済美教育センター

## 1 新自由主義—公教育改革の時代を超えて—明日の教室DVD第17弾の背景にある問題意識

私が、東京都杉並区の教育行政・学校教育に携わるようになり、7年が過ぎました。この間私は、日々改革・変化してゆく教育行政・学校教育をまのあたりにして来たわけですが、それはもちろん、現在に至っても道半ばにあります。いわばこの「教育改革の時代」を、みなさんは、どのような立場で経験されてきたのでしょうか。

周知のように、昨今の教育改革は、「新自由主義」という考え方に基づいていました。1984—1987年設置の首相諮問機関である臨時教育審議会において、教育の「多様化」「弾力化」が提言されたことなどを契機とし、とりわけここ10年は、「選択と自己責任」「自由競争」を主たるキーワードとして改革が為されてきたということです。そして現在、一連の新自由主義—公教育改革は、とりわけ「格差」「階層化」といったキーワードを基に批判され、抜本的な見直しを迫られている状況にあります。

しかし私は、新自由主義—公教育改革の為したすべてを否定するつもりはありません。本DVDにも収録されているように、あらゆる「方法」(どのように~する)は、①「目的」(~のために)、②「状況」(制約)、の二つを考え合わせ、自覚的に選択することが妥当と考えることができる。この〈目的・状況相関的—方法選択〉という考え方(原理)を視点とすれば、公教育の目的・目標を達成するために、各々の状況=学校や地域の実情に応じた教育内容・方法の選択を一定程度認めた新自由主義的な改革は、肯定し得る側面を含んでいるからです。少なくとも、この意味での「多様化」「弾力化」は、一概に否定し得るものではないはずです。

もちろん、批判しなければならない側面もあります。社会政策の一つである公教育は、その正当性の基準原理に〈一般福祉〉を置くことができます。つまり公教育は、すべての人(一般)のよき生(福祉)を促進・拡大しているときにのみ「よい」「正当」といい得るし、少なくとも〈一般福祉〉に反したものであってはならない。〈一般福祉〉を基準原理として新自由主義—公教育改革の正当性を吟味してみれば、「選択と自己責任」「自由競争」が生み出した無視できない格差や階層化は、肯定し得ません。今回のDVDでいえば、例えばある政策・施策を展開し、学力調査結果の「代表値」(最頻値・平均値・中央値等)が上昇したとしても、そこに無視できない「散布度」(分散・標準偏差等)の拡大があれば、それを肯定することは難しいということです<sup>[1]</sup>。

## 2 よりよい教育の明日へ—明日の教室DVD第17弾の内容

私は、これからの公教育をよりよいものにしていくに当たって、これまでのように、前時代の反動と打ち消し、また現状追認によって、安易に揺り戻しの改革を為す事態を回避する必要があると考えています。そして、そのために私が重要と考えていることは、本DVDとの関連の範囲で言えば、二つあります。それらは、一つに、〈目的・状況相関的—方法選択〉や〈一般福祉〉をはじめとする、よく鍛え上げられた考え方という意味での「原理」、二つに、状況を適切に測定・評価するための「技能」、です。

本DVDでは、後者に重点を置き、「心理・教育測定学」を、状況を測定・評価するための「ものさし」を構成するための技能として、「心理・教育統計学」は、学力調査、体力調査、意識・実態調査といったものさしで測定した値をよりよく「表現・処理」するための技能として、それぞれ解説しています。また、これら技能を用いる意味を受け取っていただくために、私たちの「認識」について、現象学・構造構成学の立場から考えることもしています。さらに、学習意欲と人間関係の関連、学力の段階評価といった具体的な教育の事例・データについて、専門的な統計解析のソフトウェアを動かし、その結果を考察することも試みています。そして最後に、これらの知見をまとめ上げる原理として、先の〈目的・状況相関的—方法選択〉を提案しています。

例えば私たちは、経験的に、同じ授業のねらい(目的)を達成しようと試みても、子供たちの実態(状況)が異なれば、妥当・有効な発問の仕方、板書の計画、教材の作り方、学習・指導形態の編成といった手だて(方法)が異なることを理解しているはずですが、こうした経験知を十分に基礎付ける原理が〈目的・状況相関的—方法選択〉であり、この文脈における測定と統計は、状況を知ること、より確かな方法選択を実践するための技能として位置付けることができます。本資料をここまで読んでいただければ、冒頭で記した教育改革の評価・批判も、原理、測定・統計の技能両者に支えられていることが理解できるのではないのでしょうか。

・・・

さて、よく、「坂道は上り始めが一番苦しい」と言われます。とりわけ統計学は、数学が苦手な人にとって、坂道を上り始めることすらためらうものかもしれません。こうしたことを踏まえ、本DVDに収録された2011年6月18日(土)の明日の教室では、坂道の上り始めでつまずき、息切れしてしまわないよう、解説・実演を試みたつもりです。それはつまり、「はじめての統計学」「はじめての測定学」という題に表したように、はじめの一步をなるべく上手に踏み出し、後にみなさんが独学していくための素地づくりを試みたということでもあります。

本DVDに収録された内容が、明日の教室を、教育を、社会を、みなさんの手でよりよいものにし、また、自らの生をより豊かなものにしていくための教養の一つとなれば、望外のよろこびです。

[1] 〈目的・状況相関的—方法選択〉(一般福祉)、これら原理を踏まえた新自由主義—公教育改革の評価・批判などについては、以下を参照されたい。  
■山口 裕也(2011) 公教育の「正当性」原理に基づく実践理論の展開 西條剛央・京極真・池田清彦編著 よい教育とは何か 北大路書房 収録  
■苫野 一徳(2011) どのような教育が「よい」教育か 講談社選書メチエ